

離陸に向けた作業手順の確認のため、初めて格納庫から引き出された全長68mの無人飛行船



# フワリ浮いた全長68m飛行船

## 定点滞空試験 離陸準備着々

成層圏プラットフォーム

大 樹

【大樹】国が計画する無人飛行船を使った通信・放送、地球観測システム「成層圏プラットフォーム計画」の研究・開発に伴い、独立行政法人宇宙航空研究開発機構などは7日、大樹町多目的航空公園で、定点滞空飛行試験用の実験機を初めて格納庫から出した。全長68mの巨大な船体をひも付きのまま10mほど浮上させるなど、離陸準備までの手順を確認した。上空4時に滞空させる本格的な飛行試験は今月中旬以降に実施する予定。

実験機は幅17・5m、高さ20m、重量は6・4t。軽量化のため機体は軟式構造を採用した。ヘリウムで浮力を出すほか、上昇後は船底に付いた2つのプロペラで進む。

この日、屋外では研究者や飛行船を操る地上管制塔からの指示に従い、風が収まった午後5時ごろ、まず格納庫からトラックで飛行船を引き出し、約100m先の離陸用ハンドリングエリア(半径70m)へ運搬した。バラストを少しずつ下ろし、同6時ごろ、巨大な船体をふわりと上空に浮かべた。

同計画では、将来的に遠隔と自動操縦で機体を移動させ、一定の位置に常駐できる技術確立。機体に搭載した機器で放送や地球観測を行う。

(浅井文人)

23日から30日検査

23日から30日検査。検討部会は今回が初会合で、具体的な活用促進策などを話し合っていく。年度内に数回の会議を開くほか、インターネットを使った電子会議室でも議論する計画。支庁は、バイオマスを生かした新産業創出を地域重点戦略に掲げ取り組みを強化している。同会議は7月、地域が一体となって資源循環の地域づくりをめざすと、管内外から広く関係者を集め設置された。関心のある人は、同会議に自由に参加できる。同会議の問い合わせは支庁地域政策課(24・3111)まで。



発行所  
十勝毎日新聞社  
©十勝毎日新聞社2004  
〒080-8688  
帯広市東1条南8丁目  
TEL(代表)0155-22-2121  
編集局 0155-22-2121  
広告局 0155-23-2323  
販売局 0155-24-2222  
事業局 0155-22-7555  
総務局 0155-24-2299  
広尾支局 01558-2-4111  
池田支局 01557-2-2367  
本別支局 01562-2-2618  
新得支局 01566-4-5524  
札幌支社 011-261-2161  
東京支社 03-3544-1365